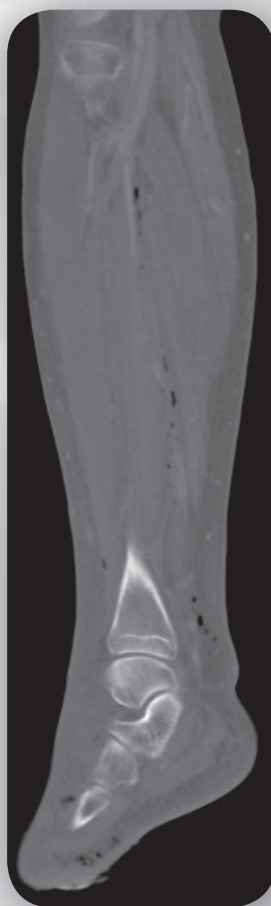
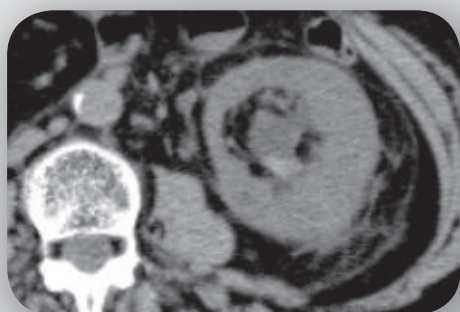


特 集

かすかな所見からひも解く



(写真：p.1239, 1246, 1272より)

非外傷性救急疾患の画像診断

序説

近年、救急医療の現場では交通事故などの重症外傷が大幅に減少し、非外傷性疾患に遭遇する機会が増えているが、非外傷性疾患の対応は複雑である。今年は新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行し、日本においても救急医療の現場への影響は計り知れない。わたしたち放射線科医も職場での咳エチケット、三密回避に始まり、胸部CTの適応、感染対策などさまざまな対応に迫られた。

そのようななか、今回は救急医療で扱うことの多くなった非外傷性疾患に焦点をあてて特集を組むこととした。

始めに救急医療の最近の動向として第一線で活躍する救急集中治療科 舩越 拓先生に救急疾患の変遷、救急外来で患者対応、さらに新型コロナウイルス感染症の影響について放射線科医にもわかりやすくまとめていただいた。頭部・頭頸部領域では黒川 遼先生に、ご自身の症例集のなかから超緊急ではないが少し先の未来に重大な影響を及ぼしかねない病態として、見逃しがちな病歴・所見について解説していただいた。脊椎・脊髄領域では岡崎 隆先生に、特に見逃しがちな脊柱管内の病変について臨床的、画像的な特徴を踏まえて、診断プロセスや鑑別について解説していただいた。血管領域では佐藤文恵先生らに注意すべき9つのパターンとして症例をご提示いただき、見逃しやすい理由、診断プロセスについて明快に解説いただいた。腹部領域では高濱潤子先生らに、骨盤領域を中心に見落としがちな所見に焦点をあてて、多くの症例をご提示いただきながら解説していただいた。四肢領域では中田和佳先生に油断すると痛い目にあう筋・筋膜疾患、忘れたところに遭遇する腫瘍、また小児疾患についてご解説いただいた。最後に【Special Topic】として山田 恵先生には救急画像診断における若手診断医の育成など教育論的な見解についてまとめ上げていただいた。研修医も指導医もぜひとも読んでいただきたい。

なお、本号では『特別特集』として新型コロナウイルス感染症(COVID-19)について取り上げている。新型コロナウイルス感染症の影響については、そちらも参照していただければと思う。

本特集が“かすかな所見からひも解く”日常診療のヒントとなっていいただければ幸いである。

稲岡 努